

R&R活用に向けた取り組み (ソニーの事例)

ソニー株式会社
生産本部
生産戦略部門
技術標準部

村田貴昭
2011/02/25



当社が抱える課題

40年来運用してきた部品管理方法を見直します。

- サプライヤ様へご要求する仕様を紙にまとめ、社内部品番号、変更履歴と共に部品情報の管理を実施してきました。
(SB仕様書の発行、変更管理、Qooとの連携)
- その後CADやCAE技術の発達に合わせ、それぞれで必要な部品情報はSB仕様書を元にライブラリ構築を行いました。
- 昨今の設計、製造に関連する環境変化への対応が困難となり、抜本的な見直しが必要となりました。



ECALS対応の部品情報DB構築を計画

- シミュレーション技術は確認ツールから設計ツールへ
- 試作レス対応

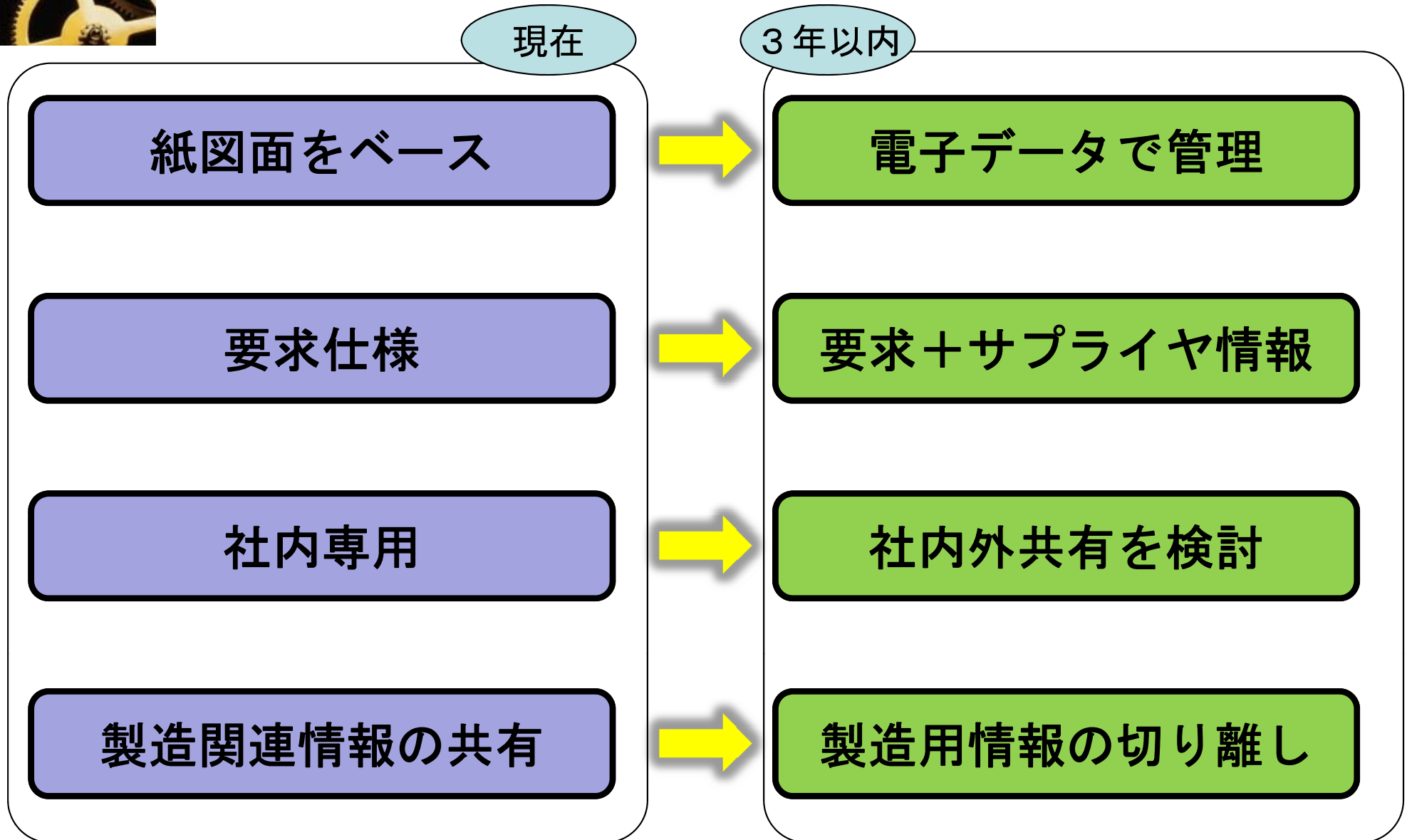
設計開始時点で部品情報が整備されている必要があります。

- 社内外関連各社との部品情報連携強化。
- 特にEMS対応の拡大、環境情報の早期確認。

社内外で連携可能なデータ構造の部品情報



部品DBの構築ポイント





ECALS対応に向けた取り組み

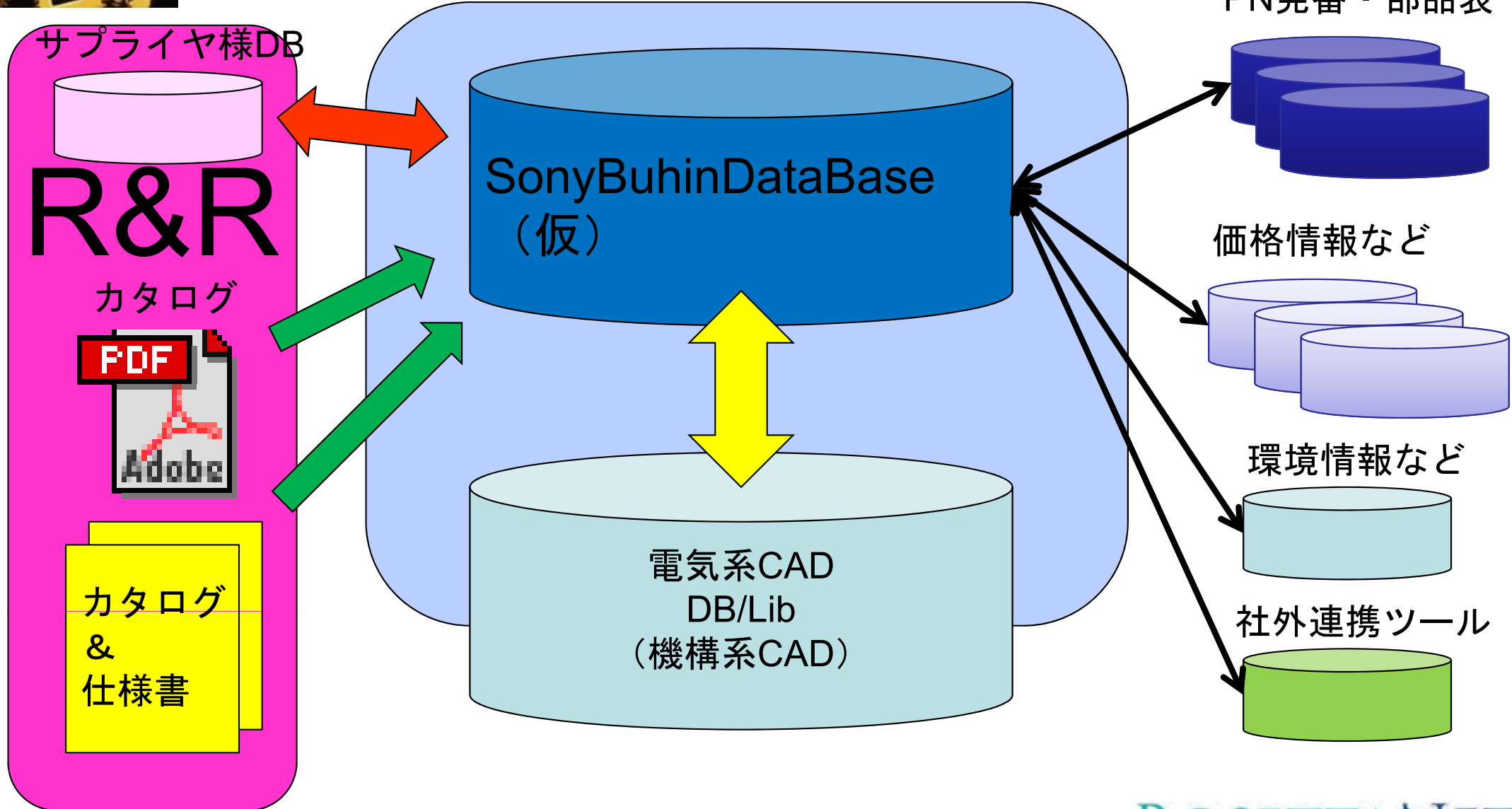
- 社内登録用部品情報のECALS対応化について可能な領域、項目について検討を開始しました。
(新規部品申請、仕様書フォーマット、検定項目、CAD情報 等)
(製品カテゴリ制限なし。カスタム品含む。) →2012年度1Q稼働予定
- 既存登録部品は必要な部品に限定して電子化し、紙登録の運用は速やかに停止を予定しています。
- 上記活動を視野に、当社電気CAD環境にECALS情報取り込み可能な新しい部品DBを構築致しました。



(仮) ソニー電子部品.com

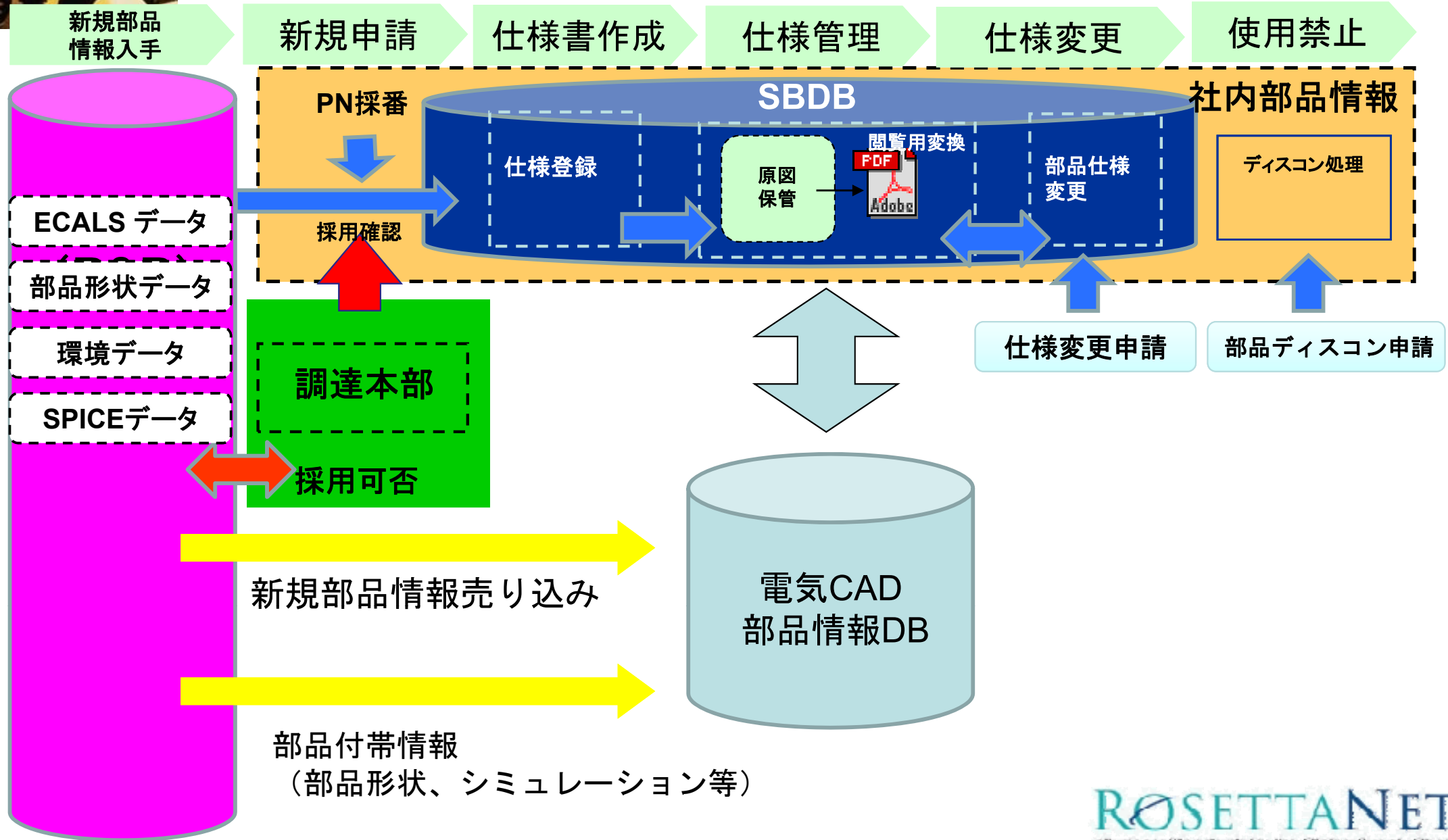
(と呼ぶかはまだ決定してないですが)

PN発番・部品表





R&R活用による部品情報登録と管理案





想定するR&R (RISE) の活用範囲

●設計領域の活用

- CADへの新規部品情報の取り込み。（←CAD担当）
- 部品付帯情報（形状、環境等）の入手（←設計、CAD担当）
- 新規部品申請書、SB仕様書の起案（←設計部門）

●調達領域の活用

- 新規部品（売り込み）情報の精査（←調達部門）

事前審査情報の共有など

- 他社や部品情報の管理が異なる部門との部品情報共有対応
（他事業部、EMS関連、設計協力会社など）



R&R (RISE) のメリット

他社部品情報共有対応のイメージ

ソニー側

ここまで公開



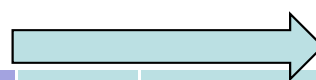
ECALS情報	Sバイヤ別 サプライヤ品番	提供 可否	ソニー PN	ソニー SB	価格
***** 4P	*****-04S	○	1-***	ZZ111	
***** 6P	*****-06S	○	NEW	ZZ111	
***** 7P	*****-07S	×	NEW	ZZ111	
*****	*****-PPP	○	1-***	ZX001	
*****	*****-PPZ		NEW	NEW	

固有情報は
非公開

同じECALS情報にそれぞれ一致させる事で部品のマッチング情報を共有する。

他社側

ここまで公開



ECALS情報	Fバイヤ別 サプライヤ品番	提供 可否	F社PN	価格
***** 4P	*****-04F	○	*****	
***** 6P	*****-06F	○	*****	
***** 7P	*****-07F	○	NEW	
*****	*****-PPZ01	○	NEW	
*****	*****-PPZ01	×	*****	

固有情報は
非公開



R&R (RISE) 導入における当社の効果

- 設計工数に寄与する新規部品登録～SB登録に関して
 - **新規部品検索から図面作成改善(***万円/年)**
 - CAD連携及び調達標準化情報
 - **部品探索～集約期間の短縮(＊日→＊日)**
- (2010年度事業計画資料より)
- 社内部品情報データ化工数削減
 - 外部連携情報作成工数削減



サプライヤ様へのお願いについて

- ECALSベースの部品情報ご提供をお願いする事になります。
- この内容については、現在、調達本部との調整を行ってまいります。
- 必要に応じてソニーから別途ご説明の機会を設ける計画です。



ご清聴ありがとうございました。